しろね図書館だより

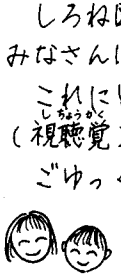
発行 新潟市立白根図書館
No.93　平成20年2月1日

✿ 2月の展示架テーマ 「お菓子づくり」

しろね図書館は蔵書点検の為、2月15日(金)～2月29日(金)まで休館します。みなさんには大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力よろしくお願いします。

これにともない、2月1日(金)～2月14日(木)までの間は図書・雑誌・AV(視聴覚)資料の貸出期間が**4週間**に変わります。

ごゆっくりお楽しみください。



教えて、図書館博士！ 「蔵書点検」てなあに？

良い質問だね！答えよう。

「蔵書点検」というのは、昔の図書館で行われていた「曝書」にあたるものなんだ。昔は本の紙の質も良くなくて、虫に喰われたり、紙がボロボロになったりしていたんだ。それを防ぐために一年に一回は必ず、本を乾燥させて、虫喰いを防ぐために陽に曝し、それと同時に目録カードにそって本を一冊一冊点検していたんだ。あまり本のなかった図書館でもすごく手間どったそうだよ。今では紙質も良くなってコンピューターで管理されているから、陽に曝すことはほとんどなくなったけど、一冊一冊点検していくことは変わらないんだよ。しろね図書館には約12万点の本や雑誌、視聴覚資料があって、それを一つ一つ点検して、無くなったものがないか、切れてしまったり汚れてしまったものがないか確認しているんだ。そして、修理をしてきたみんなにきれいな状態で気持ちよく読んでもらえるようにしているんだ。

図書館の本はみんなのものだから汚したり切ったりせずに大切に読んでね。

1月の

来館者 ----- 13,081 人 {視聴覚資料36人含}
貸出冊数 --- 13,378 冊
予約件数 --- 245 件

ブックバスは運休しています

予約ランキング (しばらくお待ち下さい)

1位 ホームレス中学生 (23名)
2位 女性の品格 / ダイイング・アイ / 楽園 上・下 (7名)
3位 鈍感力 (4名)
4位 おひとりさまの老後 / 私の男 (3名) 他

子どもたちといっしょに

「はるかぜ とぷう」 小野かおる さく・え (福音館書店)

子ども同士はすぐに新しい楽しみをみつけて、けんかをしたり仲良くなったりいろんなものに興味を持って成長していきます。はるかぜの子ども〝とぷう〟も人間の子どもと一緒で好奇心が旺盛です。町から町に引越ししてもすぐに新しい友達をみつけて一緒に遊んで、けんかもしていろんなことを経験します。

とぷうたち親子もようやくあたたかくなってきたとある町に着きました。そこではたくさんのはるかぜたちがいて春の訪れを知らせてくれています。

とぷうのおとうさんおかあさんもはるかぜのあたたかさと同じようにとぷうを見守ってくれています。みなさんも子どもたちの好奇心をどうぞ応援してあげてください。いろんなことに興味を持ってたくさんのことを経験して、子どもたちは大きくたくましくなります。どれだけ成長したのかなんてすぐにはわかりませんが、いつか大きくなってから小さい頃に経験したたくさんのことが役立つ日が来るでしょう。

もうすぐ、とぷうたち親子が絵本からとび出してわたしたちのところにもやってくることでしょう。

▶ 毎月25日は**雑誌リサイクル**の日（25日が休館日の場合、翌開館日）
2月は25日がリサイクルの日です。しろね図書館にある雑誌全98タイトルの内、保存期限の切れたものが対象です。毎回全ての雑誌が出るとは限りませんのでご了承ください。

第88回読書会

"バーバラ・クーニーの絵本"

どれでも1冊以上読んで

2月10日(日)
午後2:00～　場所：白根学習館ルーム4・5

バーバラ・クーニー：1917年、ニューヨーク市ブルックリン生まれ。人間の美しさやあたたかさが感じられる絵本を数多く画いている絵本作家です。2000年没。

＝作品紹介＝
『チャンティクリアときつね』、『にぐるまひいて』、『ルピナスさん』、『ロバのおうじ』、『ぼくの島』、『エミリー』（ほるぷ出版）『ちいさなもみのき』（福音館書店）『ちいさな曲芸師 バーナビー』（すえもりブックス）『クリスマス人形のねがい』（岩波書店）ほか多数

2月の行事

2(土)	おはなし会 3:00～
6(水)	絵本のじかん 3:00～
9(土)	おはなしかご例会 10:00～ / おはなし会 3:00～
10(日)	第88回読書会 2:00～
13(水)	第56回 あかちゃんがはじめてであうほん / 絵本のじかん 3:00～
15(金)	休館（蔵書点検）
	∫
29(金)	休館（蔵書点検）
3/1	開館!! / おはなし会 3:00～

※ 降雪期のためBMは運休します

～　図書館員がおすすめするこの１冊　～

「蝶々はなぜ菜の葉にとまるのか」

日本人の暮らしと身近な植物

稲垣栄洋著・三上修絵（草思社）
一般　４７０イ

私たち人間は、有史以来多種多様な植物に囲まれて生活しています。そのなかには野菜や果物あるいは森林等人間にとって身近なもの、有益なものばかりではなく毒のあるものや雑草など厄介なものもあります。そんな中で日頃何気なくみているもの、触れているものでも、よく考えるとどうしてそうなのだろうかと不思議に思うことも数多くあると思います。それらは何も人間のために変化したものではありません。植物自身がどうしたらこの自然の中で外的から身を守ることができるのか、子孫を守り続けていくことができるのかを自然との共生の中で長年の間に身につけていったものです。

この本は、これら進化の過程から生まれてきた様々な植物とそれにかかわる人間との関係を表題の「蝶々はなぜ菜の花ではなく菜の葉にとまるのか」や正月にはどうして門松を飾るのか、又、桃の節句やこどもの日など年中行事にどうしてそれら固有の植物が関係するのかなど、遥か昔から人間と植物がかかわってきた経緯や身近な植物との出会い等を植物学の立場からやさしく解説しています。

さらに、お寿司にはササの葉やワサビ、お茶がつきものであったり、弁当が木の箱であるなど普段なにげなく過ごしてきている日々の暮らしの中での人間と植物とのふれあいをドラマチックに描いております。

この地球上に植物が誕生して何億年も経過しており、その間すべての生物は自然との競合を身につけるべく様々な形で進化してきています。年々自然破壊が進んでいく今日、改めて自然のすばらしさ、自然との共生、人間と植物との関係を見なおすことが大切ではないでしょうか。どうぞ、身近に展開されている人間と植物のドラマに触れてみてください。

（館長　坂井治一）

第87回読書会

平成20年1月20日（日）
午後2時から

『溢れる春』

新潮社
津島佑子　著

参加者の感想より

■最初の印象は、主人公のカズミと同年代だなと思いながら読んだ。確かに思いあたるところがいくつかあったがやっぱり同じとは言えない。同年代だからとすべて重ねてみることはできない。偶然にも庭に咲く水仙に共通点があった。

■重く暗いものが作品全体にのしかかっているようだった。カズミが抱く死に対する幻想がこちらにも広がり、不安にさせられる。いってらっしゃいと見送った家族が無事に帰ってくるとは限らない・・・確かにそうだが、大抵はそんな不安を抱き続けることは無理だとあきらめることになる。彼女の死に対する執着、予感は逆に人生をあきらめていないことを感じさせた。恐れるのはまだ「生」を捨てていない証だと感じた。

■テルミ（実弟）とその子供マキ子を預かることになった経緯が分かるまでカズミの気持ちを理解しにくい面があった。家族に対してカズミは気を使いすぎているくらいだし、なぜそこまで死を意識しているのかという疑問と、家族側（実母、テルミ、マキ子）の感情も読み取りにくいというよりこの程度の反応しかないのだろうかと思った。家族それぞれにどこか距離があるように思えるし、感情を抑えているのか起伏が見えない。どこかでそれが爆発して何か起こるのではないかとハラハラした。つらいからこそ平静を保とうとしていたとして、できるものなのか。妻と息子の死を私ならどう乗越えるのかと考えてみてもなかなか答えはでない。でも、平静ではいられないと思う。

弟は身近な人の死で生きる見方が少し変わった。そうなるまでの葛藤が所々に見られたし、以前家族で住んでいた家をそのままにしている事もそのひとつだと思った。

■つらい悲しみを抱えた弟には、古い家とともに老い、生きる楽しみを忘れかけているカズミを放ってはいられなかったのだと思う。カズミもまた本人の意識しないところで周りに気づかせてしまうだけのしぐさや表情に出るさみしさがあったのではないだろうか。でなければ、他人が「年齢、家の用事を理由にせずいろんなことをふっきってしまえ。そうすれば子どもの頃のカズミがきっと現れるにちがいない。」なんて言ってはくれないだろうし、誰かにそこまでしてもらえてやっと動き出せることが時にはある。

■カズミの死の幻想のひとつにさまざまなものがひしめく部屋をみて自分が死んだら誰がこれを片付けていくのか、と思い浮かべる場面であぁ私もだな・・と思ってしまった。

■読後感が、最初の印象と大きく変わってなんだかほっと気持ちが落着くような感じだった。生きるという事を改めて考える機会になった。

「・・予想のつかないことが起こりつづける。生きるということがそもそもそういうものだったのだろうか。でも、それは決して悪いことではない、と思えた。」（本文引用）

読むことでどこか自分自身の気持ちも整理していた。生きる意欲が最後には感じられ気持ちが良い。

（大野　恵子）

次回の読書会は

2月10日（日）午後2時から
『バーバラ・クーニーの絵本』
・「ルピナスさん」
・「おもいでのクリスマスツリー」
・「にぐるまひいて」
・「おさらをあらわなかったおじさん」
など…
の中から一つ以上の作品を選んでご参加ください。

読書会とは、同じ本を読んでお互いに感じたこと、思ったことを好きに話合う会です。
希望される方は、貸出しますのでカウンターでお申し出ください。みなさんのご参加をお待ちしております。